四国森林管理局 森林技術・支援センター

次世代につなげる森林づくり

No.７－１

平成２６年９月

「小型囲いわな」による効率的なシカ捕獲試験

森林技術・支援センター

★試験開発目的

本試験は、シカを効率的に捕獲することで、個体数管理の一助とすることを目的として平成二十四年から取組んでいます。

従来の「囲いわな」は、複数頭捕獲が可能である反面、機動性が悪く（大きい、部材が多い、設置に人役を要する等）、柔軟に移動させることが困難です。そこで、「箱わな」の天井部を取り払った「小型囲いわな」を考案、低コストで組立解体が容易なわなとして改良を進めてきました。、誘引試験等を実施し、捕獲しやすい時期や設置場所等についても検証しています。

また、錯誤捕獲の危険性が少ない「囲いわな」であれば、狩猟期間内は農林業への被害防止目的に設置する場合狩猟免許が不要であることから、それ以外の有害鳥獣捕獲許可期間と併せ農林業従事者が通年使用できることを念頭に、普及に向けて試験・開発を重ねています。

★試験内容

一、高知県東部、中部、西部の国有林で、撒き餌でシカを誘引してカメラ撮影を行い、季節別や時間帯別の動向調査を行っています。

二、箱わなを改良（天井部を解放）した「小型囲いわな」の開発目標は、

①低コストで製作（市販品価格の半額以下の五万円程度）。

②軽量化（百二十kg以下）で、軽四トラックに積載可能なもの。

②組立・解体が簡単（10～15分程度で可能）なものとして、

捕獲試験を行いながら、開発・改良を重ねることとしました。

加えて、捕獲効率を上げるため、小型囲いわなの設置場所や設置期間の検討及び捕獲したシカの分析等も行っています。

★これまでの試験結果

①誘引に動向調査では、季節変動や地域間（標高差）には、干潮差が出ること、（日没～日の出頃）一日の行動時間帯（日中）や、季節等の地域でもほぼ同じであることが分かりました。

②小型囲いわなの開発・改良に立ち向かうには、解体が簡単で低コストで使用しやすいこと、強度や耐久性に問題なし、組立・解体の重量や製作費、運搬可能な軽量化を取り組んだ結果、小型軽量化を実現した。

カプセル製品をベースとし、大幅に改良した「タイプ７」、「タイプ８」を開発しました。

タイプ７ ↑

↑ タイプ８（改良）

タイプ７		タイプ８（改良）
約 102kg	重　量	約 58kg
約 49千円	製作費	約 43千円
2人で10分	組立時間	2人で5分
110×160×220cm	横幅×高さ×奥行き	80×130×180cm

タイプ8は軽四トラックにも積載可

★囲いわなによる効率的なシカ捕獲試験は No.７－２に続く

雑学

冷蔵庫で長期保管するとダメな食品知ってる？？

- バナナは、冷蔵庫に入れて２日もたたないうちに、 皮が黒褐色になり、果肉がとろけ始める。
- トマトは、食感と風味が変わってしまう。
- ジャガイモは、表面がザラザラになり、味わいにも影響します。
- 玉ねぎは、腐りやすく、ぐにゃっとした食感になってしまいます。
- ピーマンやキュウリを４～５日冷蔵庫に入れておくと、水浸状に腐って来るので、３ 日以内に食べましょう。